第4章
まちづくりの目標

第１節　将来都市像

１．将来都市像

本庄市総合振興計画に掲げる本市の将来像

「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち　本庄～世のため、後のため～」

を、本都市計画マスタープランにおける将来都市像とします。

２．まちづくりの基本理念

本庄市総合振興計画に掲げる本市の基本理念

「訪れたくなる 住み続けたくなる まちづくり」

を、将来都市像を実現するためのまちづくりの基本理念とします。

３．まちづくりの施策展開の目標

次の３つをまちづくりにおける施策展開の目標とし、市民と行政とが協働で目指します。

（１）誰もが安全・安心で利便・快適に暮らせる都市

まちづくりに対する社会的要請は、少子高齢化の進展や価値観の多様化・成熟化等の社会情勢の変化、大規模な地震発生への不安感の高まり等に対応して変化してきており、これまでのまちづくりに加え、やさしさ・潤い・安心・ゆとり等の人の内面的な豊かさを実感できることや安全で快適なまちづくりを進めることが求められています。

良好な住宅・住環境の整備や定住促進施策の実施、地震や異常気象による水害等の災害に強く人にやさしい都市環境の整備、良好な景観整備等の取組により、誰もが安全・安心で利便・快適に暮らせる都市を目指します。

（２）活発な産業活動と多様な交流を育む都市

本市は恵まれた交通条件や商業・工業などの都市的集積を有しています。都市活動を維持・発展させていくためには、これらを活かして産業活動や人々の交流を活発にすることが重要です。

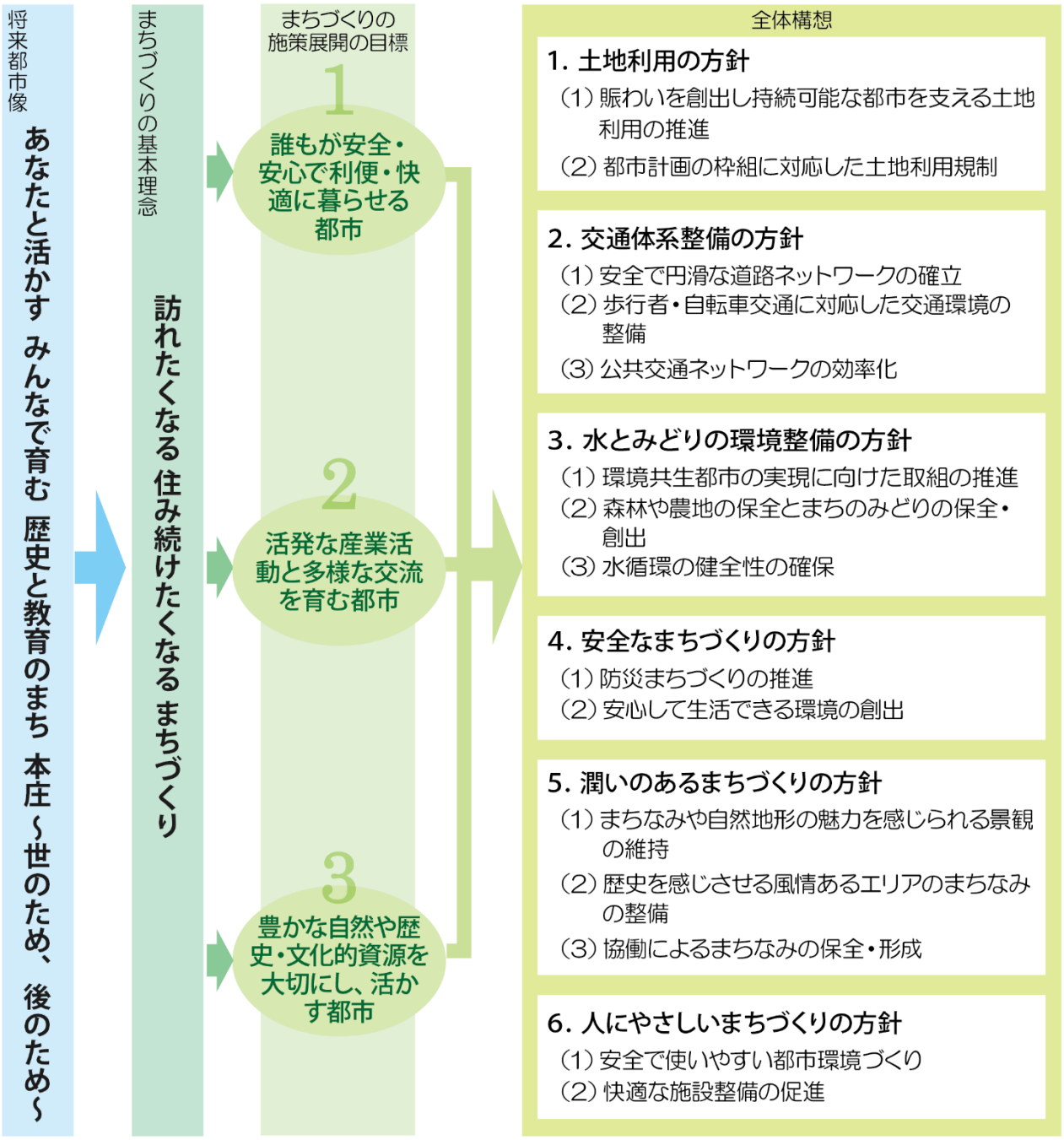
産業・交流の拠点づくりを推進し、活発な産業活動と多様な交流を育む都市を目指します。

（3）豊かな自然や歴史・文化的資源を大切にし、活かす都市

本市の豊かな水やみどり等の自然環境や歴史・文化的資源は、先人のたゆまない努力により守り、育まれてきた大切な財産です。

この大切な財産を保全し後世に残し伝えていくとともに、豊かな自然や歴史・文化的資源を大切にし、活かす都市を目指します。

■将来都市像の枠組と全体構想



※「全体構想」は第５章に対応

第２節　将来人口の見通しと将来都市構造

１．将来人口の見通し

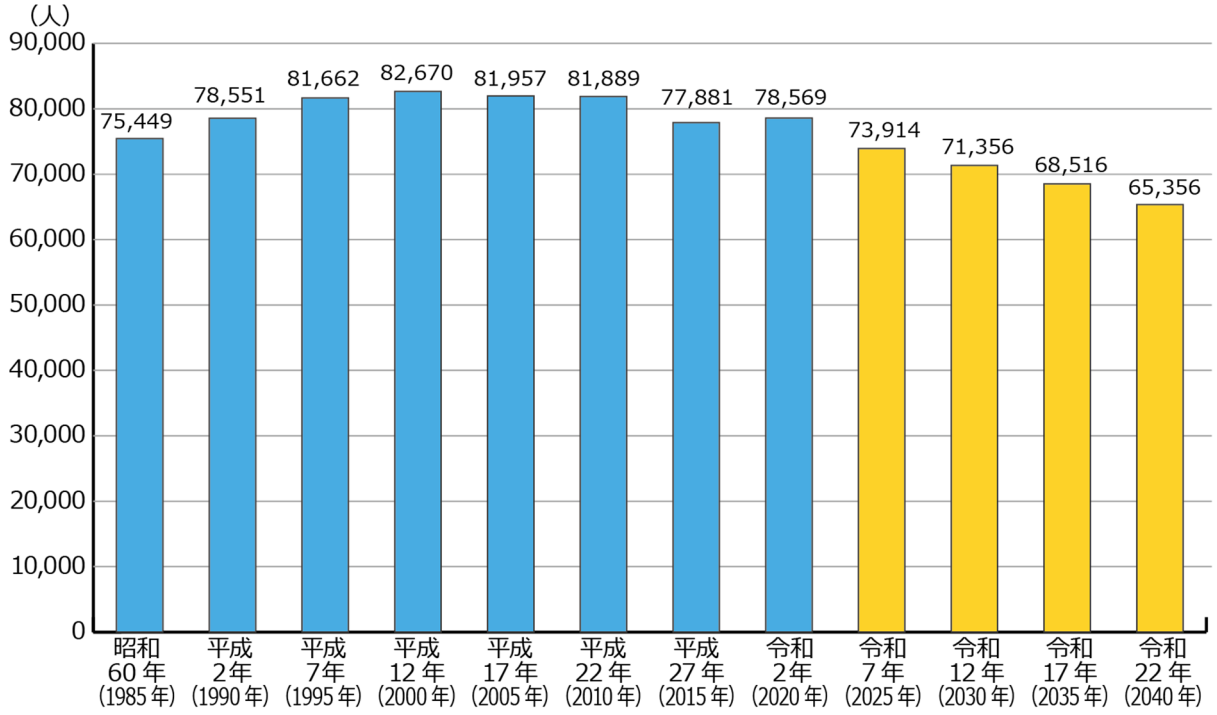
本市の総人口は、平成 12 年（2000 年）の 82,670 人をピークに減少へ転じ、平成 27 年（2015 年）には 77,881 人と 15 年間で約 6%減少したものの、令和２年(2020 年)は転入者が転出者を上回る転入超過等の影響もあり再び増加し、78,569 人となっています。

今後も、年少人口（15 歳未満）や生産年齢人口（15 歳～64 歳）は減少する一方、老年人口（65 歳以上）は増加を続け、中・長期的には人口減少や高齢化が一層進むことが想定されています。

本計画においては、まちづくりの様々な取組を通じて人口減少や高齢化の速度を緩めていくことを目指します。

なお、将来の人口の配置については、「本庄市立地適正化計画」で設定している居住誘導区域内に居住している人口の占める割合を高めていくことを目指します。

■本庄市の人口推移



出典：総務庁統計局・総務省統計局「昭和 60 年～令和２年国勢調査」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）［令和7年から令和22年］

2．将来都市構造

（1）将来都市構造の基本的な考え方

３つの駅（本庄駅・本庄早稲田駅・児玉駅）周辺において、各々の特性を活かして居住や交流等の魅力を一層高め、定住や店舗等の開業・起業、地域活動等が進みやすい環境づくり（都市機能の充実）により拠点形成を進めるとともに、拠点相互の連携・機能補完のための都市軸を充実させ、「拠点連携を基本とした集約型都市構造」の強化を目指します。

市街地ゾーン、田園ゾーン、森林ゾーンでは、それぞれの潜在力を引き出し、市全体でバランスよく魅力・活力を創造します。

また、本庄児玉インターチェンジ周辺、国道 17 号本庄道路周辺の発展創出ゾーンでは、広域交通の利便性を活かし、産業集積を誘導します。

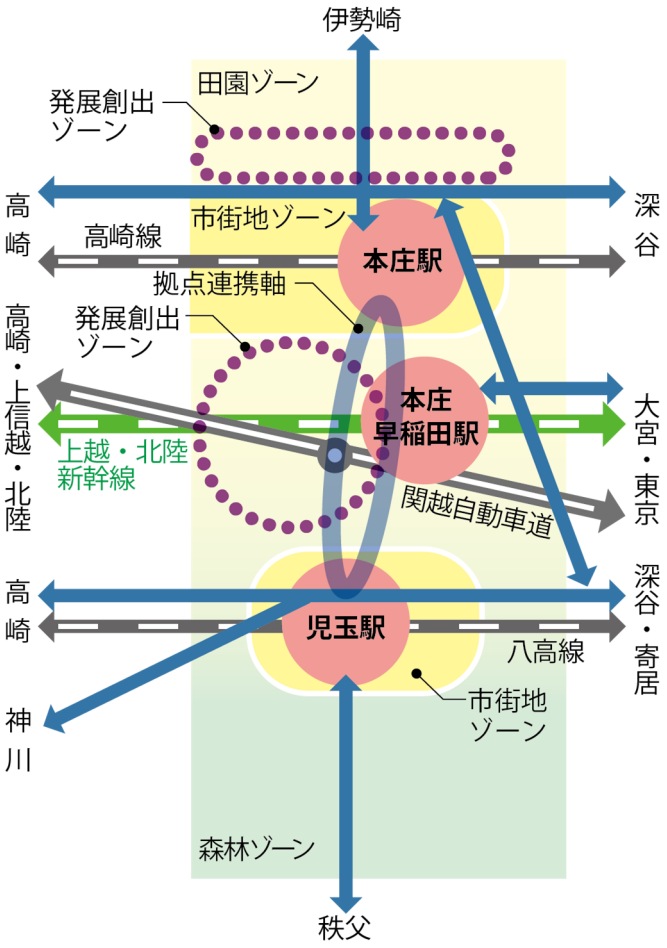
■将来都市構造図（概念図）

拠点
…本庄駅・本庄早稲田駅・児玉駅周辺
居住や交流等の魅力を一層高め、定住や店舗等の開業・起業、地域活動等が進みやすい環境づくりを推進（都市機能の充実）

軸（ネットワーク）
…鉄道や高速道路、国道、主要な県道等
市内外の円滑な移動や連携、自然環境を活かした地域活動と交流を活性化させる都市軸を充実

ゾーン
…市街地ゾーン、田園ゾーン、森林ゾーン
ゾーンごとの潜在力を引き出し、市全体でバランスよく魅力・活力を創造

…発展創出ゾーン
本庄児玉インターチェンジ周辺、国道 17 号本庄道路周辺の広域交通の利便性を活かし、産業や観光機能を創出



（２）将来都市構造

① 拠点

ⅰ　本庄駅周辺拠点

本庄駅周辺を交通利便性や生活利便性を活かしつつ、デジタル技術も活用しながら、居住の安心と回遊・滞在の楽しさを感じることのできる“まちなか再生”を展開する拠点として位置づけます。

ⅱ　本庄早稲田駅周辺拠点

本庄早稲田駅周辺を首都圏北部の“顔”となる都市機能の集積を誘導し、次代につなげていく拠点として位置づけます。

ⅲ　児玉駅周辺拠点

児玉駅周辺を児玉地域の交通結節点としての機能を活かしつつ、豊富な歴史・文化的資源を活用し、都市機能の充実を図る交流拠点として位置づけます。

② 軸（ネットワーク）

ⅰ　拠点連携軸

国道 462 号、県道花園本庄線、本庄駅南口前通り線、中央通り線を拠点連携軸として位置づけ、拠点間の移動の円滑化や相互の機能連携・補完、都市活動の活性化を促進するため、関係機関と連携を図りながら公共交通の強化、自転車利用環境・広域避難ルートの整備を促進します。

ⅱ　広域連携軸

鉄道、国道 17 号、国道 254 号、国道 462 号、国道 17 号本庄道路、深谷・寄居・秩父方面の県道を周辺市町との連携・交流の軸として位置づけ、関係機関と連携を図りながら機能強化を促進します。

ⅲ　自然環境軸

市民主体の環境保全活動や健康づくりの舞台となり、市街地ゾーンに潤いある環境を取り込む散歩・ウォーキング・ジョギングやサイクリングのルートなどを自然環境軸として位置づけ、機能強化を図ります。

③ ゾーン ----------

ⅰ　市街地ゾーン

主に用途地域を市街地ゾーンとして位置づけ、交通や生活の利便性を維持しながら水とみどりの心地よさを身近に感じられるコンパクトな居住環境の維持・創出を図ります。

ⅱ　田園ゾーン

農業生産力や農村特有の環境・生活様式を守り、活かして、体験・学習・交流を促進する地域を田園ゾーンとして位置づけ、交流を通じた多様な担い手の育成と田園環境の維持を図ります。

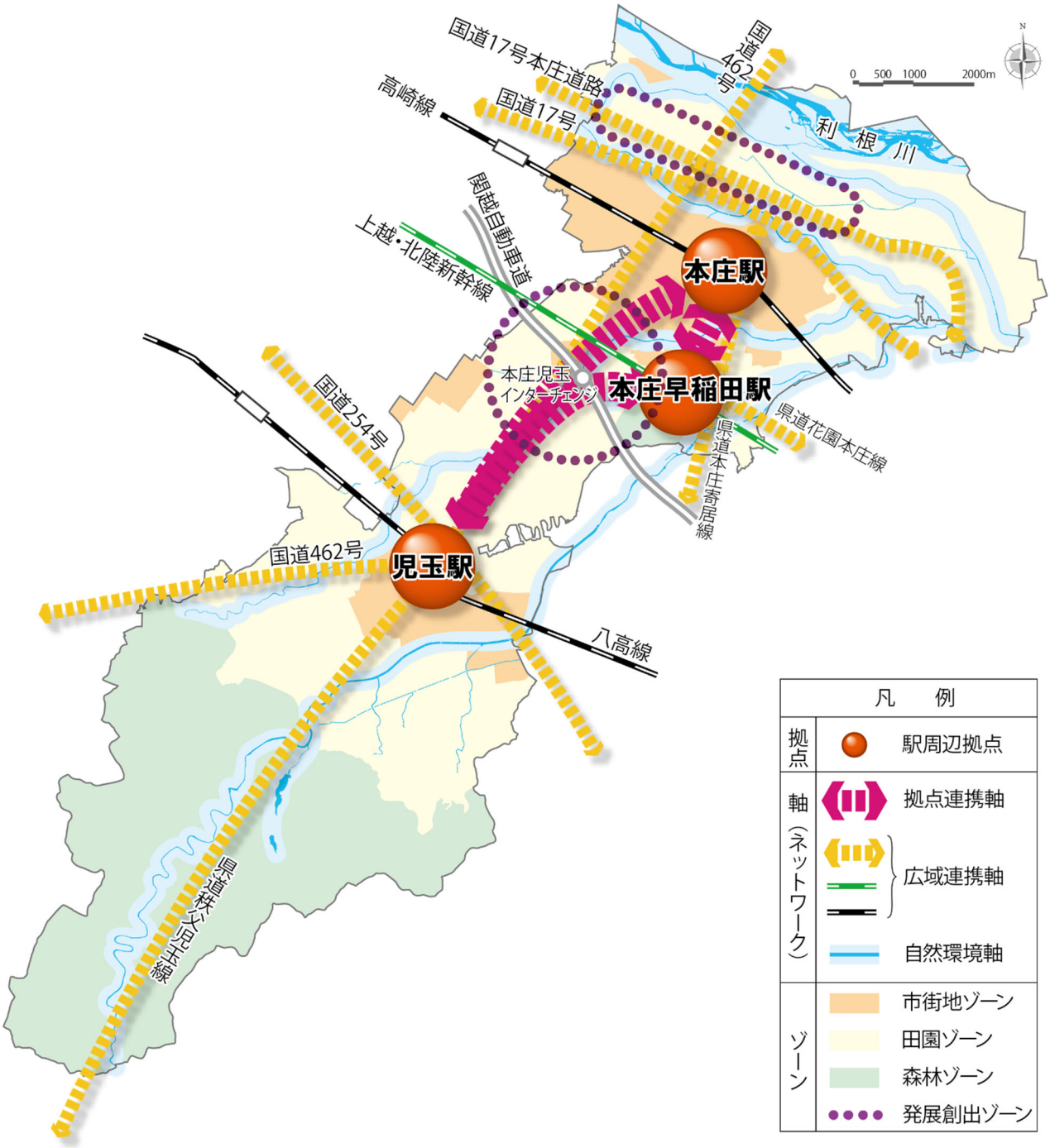
ⅲ　森林ゾーン

県立上武自然公園や森林地域を森林ゾーンとして位置づけ、豊かな自然環境の保全・活用を図ります。

ⅳ　発展創出ゾーン

関越自動車道本庄児玉インターチェンジ周辺や国道 17 号本庄道路周辺を発展創出ゾーンとして位置づけ、農業施策と調整をしながら生産・加工・流通等の産業機能や観光機能の創出を図ります。

■将来都市構造図


国道17号本庄道路
国道462号
高崎線
国道17号
利根川
0 500 1000 2000m
関越自動車道
上越・北陸新幹線
本庄駅
本庄児玉インターチェンジ
本庄早稲田駅
県道花園本庄線
県道本庄寄居線
国道254号
国道462号
児玉駅
八高線
県道秩父児玉線
凡例
拠点
駅周辺拠点
軸（ネットワーク）
拠点連携軸
広域連携軸
自然環境軸
ゾーン
市街地ゾーン
田園ゾーン
森林ゾーン
発展創出ゾーン

第３節　目指す都市のイメージ

持続性を獲得した本庄市の都市の機能や環境、暮らし、活動のイメージを次のように想定します。

３つの駅周辺拠点では
「次代を見据えた都市機能が集積し、災害にも備えた連携が進んでいる」

市街地ゾーンでは
「ライフステージやライフスタイルに合わせた移住や定住が進み、多様な世代がいきいきと暮らしている」

田園ゾーン・森林ゾーンでは
「若い世代や多彩な人材の活躍の場が増え、交流を通じた活性化が進んでいる」

発展創出ゾーンでは
「多くの人が働き、様々な人材の交流が生まれ、新たな地域活力が創出されている」

ひと・組織は
「ふるさとの魅力を知り、強い愛着と絆でつながって地域の価値を高め、発信している」

１．３つの駅周辺拠点

３つの駅周辺拠点では、次代を見据えた都市機能が集積し、災害にも備えた連携が進んでいます。

- 公共交通による拠点相互の往来が便利で、３つの拠点が総体として、福祉・医療、子育て、買物等の都市機能が集積したコンパクトな市街地が形成されている
- 広域交通の利便性と教育・研究機能の立地、災害対応力の高い産業基盤の魅力で、暮らしと産業・交流を支える企業が立地している
- 災害時に相互に連携・補完できる機能が備わっている
- 駅や主要なアクセス道路、公共施設や福祉・医療施設、商業施設など、日常生活を支える施設のバリアフリー化が進んでいる

［暮らし・活動のイメージ］
- 産・学・公・地域の連携によって時代を先取りした競争力ある産業が育成され、若い世代の雇用が生まれている
- 様々な人材の交流と知の集積によって活発な活動が生まれ、新たなまちの魅力が創造・発信されている

2．市街地ゾーン

市街地ゾーンでは、ライフステージやライフスタイルに合わせた移住や定住が進み、多様な世代がいきいきと暮らしています。

- 土地・建物の健全な更新によって、高齢者が住み続けられる住宅や、若者や子育て世代に魅力のある住宅などが立地している
- 日常の買物ができる店が近所にあり、主要な生活道路は安全に歩けるよう配慮されている
- 身近な河川や公園・緑地が水とみどりの連続した環境を形成している
- 蔵や町家、レンガ造りの建物、養蚕農家住宅など、風情ある建物や空き地を利用した滞在が楽しい場所が点在している

［暮らし・活動のイメージ］

- 若者や子育て世代、高齢者など、それぞれのライフステージやライフスタイルに合わせた住み替えが行われている
- 日常の買物や通院、福祉サービスの利用がしやすい環境の中で、孤立することなく気軽にまちに外出している
- 休日などには、まちなかをぶらり回遊したり、近所の河川や公園・緑地で気軽に散歩やジョギング、サイクリングを楽しんでいる
- 空き家や空き店舗等の改修などによる起業や個性的な店舗の開業、地域コミュニティの活性化に資する事業が活発に行われている

活用されている中山道沿いの蔵

若泉運動公園

3．田園ゾーン・森林ゾーン

田園ゾーン・森林ゾーンの農村・山村集落地では、若い世代や多彩な人材の活躍の場が増え、交流を通じた活性化が進んでいます。

- 農林業の産業基盤として、田園や森林が良好な状態で維持されている
- 集落内の空き家が活用されて、滞在や宿泊、農村・山村の生活体験ができる環境が整っている
- 集落内の活動拠点が農作業や森林の保全活動のベースキャンプになっている

［暮らし・活動のイメージ］

- 田園環境や自然豊かな森林を基盤として、若い世代の短期滞在、週末滞在など、市外の人も集落での魅力ある時間を楽しんでいる
- 鉄道や高速道路など恵まれた交通条件を活かした学習・体験・交流の活動が展開され、若い世代や知恵・技術を有する多彩な人材が訪れている
- 地域を訪れた人が体験を通じた自己実現を果たして、田園・森林の環境を保全する新しい担い手に成長しており、高齢化が進むコミュニティの中で暮らしを見守る役割も果たしている

山村交流会

4．発展創出ゾーン

発展創出ゾーンにおいて、産業基盤が整備された地域では、多くの人が働き、様々な人材の交流が生まれ、新たな地域活力が創出されています。

- 良好な産業・交流基盤が整備されている
- 隣接する田園ゾーン・森林ゾーンとの調和が保たれている

［暮らし・活動のイメージ］

- 新たな産業の拠点として、多彩な人材が就業している
- 交通利便性を活かした交流の場として、広域から多様な人々が訪れ活発な交流が育まれている
- 災害時には、周辺地域の防災拠点として、助け合いの活動が展開されている

5．ひと・組織

本市で活動する市民や団体は、ふるさとの魅力を知り、強い愛着と絆でつながって地域の価値を高め、発信しています。

- 地域固有の自然、歴史・文化を記録し、学習や地域活動を通じて次世代に継承している
- 地域・企業・大学等との連携によって若者の活動拠点や活躍の機会が用意されている
- 地域の団体等の活動を相互につなぐ中間支援組織や、活動の共同企画・実践のための拠点・協議の場が充実しており、地域の価値を高め、市民の生活を豊かにする活動がより多様化・活発化している
- 地域の魅力づくりの活動内容や成果を発信することで、活動の輪がさらに広がり、活動の継続性が高まっている